

◆学習指導要領の目標・内容

知的障害のある児童・生徒の各教科等については、学校教育法施行規則第126条の第2項及び第127条の第2項で規定しています。さらに、学習指導要領には、知的障害の特徴及び学習上の特性を踏まえ、児童・生徒が自立し社会参加するために必要な知識や技能、態度などを身に付けることを重視した各教科等の目標と内容等が示されています。つまり、知的障害の各教科は、小・中学校の各教科とは目標も内容も異なるということを十分に理解することが必要です。また、段階ごとに示された各教科の内容は、児童・生徒の実態に合わせて選択・組織することとしています。教科の指導計画を作成するに当たっては、まず学習指導要領の目標・内容を理解することが大切です。

◆「各教科の内容例」※

都教育委員会ではこれまで各教科の指導内容の例を作成し、学習指導要領の目標・内容を踏まえた「各教科の指導内容の例」を段階ごとに示してきましたが、改めて表の構成や具体例の示し方を見直し、「各教科の内容例」として表しました。

本書に掲載している「各教科の内容例」は、知的障害の各教科の指導内容について、特別支援学校学習指導要領の目標・内容に基づき、観点別、段階別に具体的な指導内容を例示したものです。

特に、国語、算数・数学、社会、理科については、次のように「内容例」の表を整理し、より参照しやすくしています。

【内容例の見方】

- ・ 観点（縦軸に表記）：学習指導要領の内容を示したものです。教科ごとに異なる。
- ・ 段階（横軸に表記）：1段階から3段階 … 小学部の1段階から3段階
4段階 … 中学部の内容
5段階、6段階 … 高等部の1段階、2段階

小学部から高等部までの内容を1～6段階で示しています。

内容の例を、観点別に記載しています。国語の場合は「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの観点に分けています。

国語の内容例

	小学部の国語(1～3段階)の内容			中学部の国語	高等部の国語(1～2段階)の内容	
	1段階	2段階	3段階	4段階	5段階	6段階
聞く	1 教師から名前を呼ばれたり言葉をかけられたりしたときに振り向いたり、目を触れたりする。	1 生活の中で聞かれる様々な人の話、言葉に反応する。	1 話を終わりにまで注意して聞く。	1 教師などからの説明や、家族、友達などの話を聞き、内容がだまかに理解する。	1 場面の人からの説明を聞いて理解する。	1 相手の立場や意図、気持ち等を考慮しながら話を聞く。
	2 絵本やかみしばい、漫画などを読んで楽しむ。	2 テレビやラジオなどの媒体をとおした音声の口調や速度に慣れ、その内容を楽しむ。	2 教師や友達、身近な人などの話、テレビやラジオの中の言葉などを聞き、文脈の内容を理解する。	2 簡単な放送や録音等を聞き内容の概略を聞き取る。	2 物語、劇、放送などを聞きあらすじを理解したり、中心的内容を正しく聞き取ったりする。	2 物語や劇などを観たりして、場面の変化や登場人物の気持ち等を理解する。
	3 空気や絵画などの中でのもの名前などを聞く。	3 相手の話を最後まで聞く。	3 話を聞いて分からないときに聞き返す。	3 簡単なメモを取りながら聞き、分からないときに聞き返す。	3 メモをとって中心的内容を正しく理解する。	3 テレビ、ラジオ放送等から必要な情報を得て生活に生かす。
	4 教師の簡単な指示を受けてよく見たり、よく聞いたりする。	4 教師や友達などの話しかけや簡単な指示、説明を聞き、内容にあわせて行動をする。	4 簡単な指示や説明を聞き取り、その通りに行動する。	4 指示や説明を聞き取って行動する。	4 指示や説明の要点を聞き取り行動する。	4 必要な情報をメモにより、生活の中で活用する。
	5 教師や授業の身近な大人、友達などの話しかけに反応する。	5 「〇〇をした」などのように返したり聞いたりして話したりしたことを簡単な表現で伝える。	5 自分の気持ちや意思、希望などの大体的内容を話す。	5 簡単なことや身体したこと、自分の気持ちや意思などの感情や希望、動作を話す言葉を使い、順序をたどって話す。	5 場面に応じて、正解に必要な内容を伝えたり話したりする。	5 場に関する意識し、自分の立場をはっきりさせ、適切に話したり伝えたりする。
	6 話しかけられた言葉を音声で聴取する。	6 要求などの意思を相手に伝えようとする。	6 聴取したことや感情などを簡単な言葉で表す。	6 いろいろなこと、だれか、だれか、何を、どうしたか、と分かりやすく話す。	6 場に応じて、正解に必要な内容を伝えたり話したりする。	6 場に関する意識し、自分の立場をはっきりさせ、適切に話したり伝えたりする。
	7 話し手を見て表情、身振り、音声などで表現する。	7 友達と一緒に簡単なせりふのある劇を行う。	7 相手の話を聞き、分からないことを聞き返す。	7 自分の意見や要望を分かるように話す。	7 場に応じて、正解に必要な内容を伝えたり話したりする。	7 人の意見を聞きながら自分の考えを整理し、明確に話す。
	8 話しかけられた言葉に話し言葉、身振り、簡単な言葉などで返事をする。	8 身近なことについての問いかけに答える。	8 簡単なことについての問いかけに答える。	8 尋ねられたことにははっきりと答える。	8 場に応じて、正解に必要な内容を伝えたり話したりする。	8 友達と立てて立って必要な内容を話す。
	9 話し手を見て表情、身振り、音声などで表現する。	9 身近なことや簡単なことについて話したりする。	9 簡単なことや感情などを簡単な言葉で表す。	9 簡単なことや生活に身近なことわざ、慣習、簡単なことわざなどを話したりする。	9 場に応じて、正解に必要な内容を伝えたり話したりする。	9 場に関する意識し、自分の立場をはっきりさせ、適切に話したり伝えたりする。
	10 自分の名前を言う。	10 「〇〇です。よろしくお話しします」のような自己紹介をする。	10 「〇〇です。よろしくお話しします」のような自己紹介をする。	10 自分や家族の名前、住所、学校名や学年などの簡単な自己紹介をする。	10 場に応じて、正解に必要な内容を伝えたり話したりする。	10 場に関する意識し、自分の立場をはっきりさせ、適切に話したり伝えたりする。
	11 「おはよう」などの簡単な挨拶をする。	11 日常の挨拶をする。	11 日常の挨拶をする。	11 挨拶や話すとき、声の大きさを意識して話す。	11 場に応じて、正解に必要な内容を伝えたり話したりする。	11 場に関する意識し、自分の立場をはっきりさせ、適切に話したり伝えたりする。
	12 正しい発音や声量などなど相手に伝わることを意識して話す。	12 正しい発音や声量などなど相手に伝わることを意識して話す。	12 正しい発音や声量などなど相手に伝わることを意識して話す。	12 発音や話すとき、声の大きさを意識して話す。	12 場に応じて、正解に必要な内容を伝えたり話したりする。	12 場に関する意識し、自分の立場をはっきりさせ、適切に話したり伝えたりする。
	13 身近な人などに簡単な内容を伝える。	13 身近な人などに簡単な内容を伝える。	13 身近な人などに簡単な内容を伝える。	13 身近な人などに簡単な内容を伝える。	13 場に応じて、正解に必要な内容を伝えたり話したりする。	13 場に関する意識し、自分の立場をはっきりさせ、適切に話したり伝えたりする。
	14 電話で簡単な受け答えをする。	14 電話で簡単な受け答えをする。	14 電話で簡単な受け答えをする。	14 基本的な電話での応答をする。	14 場に応じて、正解に必要な内容を伝えたり話したりする。	14 場に関する意識し、自分の立場をはっきりさせ、適切に話したり伝えたりする。

※「内容例」は指導内容の例示であり、必ずこのとおりに指導するということを定めたものではない。

「内容例」に示す事項は、教科別の指導で扱う場合も、「各教科等を合わせた指導」として扱う場合もあります。



◆授業時数の配当

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（第1章第2節第3）において、特別支援学校の授業時数については、各教科等の総授業時数は小学校又は中学校の各学年における総授業時数に準ずるものとする。また、各教科等の目標及び内容を考慮し、それぞれの年間の授業時数を適切に定めることとしています。高等部においては、「卒業までに履修させる各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動及び自立活動のそれぞれの授業時数を定めるものとする。」としています。そのため知的障害特別支援学校は、各学校で各教科等の授業時数を定めるとともに、児童・生徒の実態に応じて、実際に指導する際の教科別、領域別の指導や「各教科等を合わせた指導」の授業時数を配当します。

授業時数の配当では、卒業までを見通した指導を行うという視点が重要です。中学部、高等部では3年間の、小学部では2～3年間を見通して、指導の計画を立てるようにします。

下は、知的障害特別支援学校高等部の授業時数の配当例です。3年間の総授業時数から、各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、自立活動の指導内容に応じて配当し、その後、実際に実施する指導の形態ごとに時数を配当しています。

この表の時数配当は、「例」であり、各教科等の内容を指導するために必要な授業時数や指導の形態別の時数は、児童・生徒の実態に応じて学校ごとに定めます。また、「各教科等を合わせた指導」や教科別の指導の設定についても、学校の実態に応じて工夫します。

〈各教科等の内容別の授業時数と指導の形態別の時数配当の例（A特別支援学校高等部）〉

内容別の授業時数	指導の形態別の時数配当					
	教科別、領域別の指導等	各教科等を合わせた指導	日常生活の指導	生活単元学習	作業学習	
国語	420	210	210	●	●	●
社会	210	53	157	●	●	●
数学	420	210	210	●	●	●
理科	210	52	158	●	●	●
音楽	210	105	105	●	●	
美術	210	105	105	●	●	●
保健体育	350	315	35	●	●	
職業	280	140	140	●	●	●
家庭	280	140	140	●	●	●
外国語	70	0	70		●	
情報	70	0	70			●
道徳	105	0	105	●	●	●
総合	105	105				
特別活動	105	105				
自立活動	105	0	105	●	●	●
計	3150	1540	1610	470	245	895

① 児童・生徒の実態と、学習指導要領の各教科等の目標・内容から、学校独自に定めた各教科等の必要授業時数

② 実際に指導する際の、「各教科等を合わせた指導」と教科別の指導それぞれに配当した授業時数

知的障害の各教科の指導においては、児童・生徒の実態を踏まえるとともに、学習指導要領の教科の目標・内容に基づき、指導内容を適切に設定することが重要です。

また、知的障害特別支援学校の教育課程を理解し、教科別の指導と「各教科等を合わせた指導」が、互いに関連付けながら展開し、それぞれの教育効果が相乗的に得られるように指導計画を立てることが大切です。

教科別の指導の年間指導計画の作成例

教科の年間指導計画の作成について、知的障害特別支援学校高等部の国語を例に示します。

- ・ A特別支援学校 普通学級（知的障害） 1年A組
- ・ 生徒数 8名（内3名は中学校の特別支援学級、1名は通常の学級、4名は地域の特別支援学校からの進学）
- ・ 国語は、おおむね高等部1段階（内容例の5段階）

◆学習指導要領の国語の目標・内容（高等部）

1 目標

生活に必要な国語についての理解を深め、伝え合う力を高めるとともに、それらを適切に活用する能力と態度を育てる。

2 内容（1段階）

- (1) 話の内容の要点を落とさないように聞き取る。
- (2) 目的や場に応じて要点を落とさないように話す。
- (3) いろいろな語句、文及び文章を正しく読み、内容を読み取る。
- (4) 手紙や日記などを目的に応じて正しく書く。

◆国語の内容例

聞くこと	<ol style="list-style-type: none"> 1 周囲の人からの説明を聞いて理解する。 2 物語、劇、放送などを聞きあらすじを理解したり、中心的な内容を正しく聞き取ったりする。 3 メモをとって中心的な内容を正しく理解する。 4 指示や説明の要点を聞き取り行動する。
話すこと	<ol style="list-style-type: none"> 5 物語、劇、放送などを見たり聞いたりして楽しみ、その感想を話したりする。 6 場に応じて、正確に必要な内容を伝えたり話したりする。 7 場に応じた自己紹介をする。 8 必要な内容を正確に伝言する。 9 相手に応じて敬語を使って話す。 10 相手に応じた電話対応をする。
読むこと	<ol style="list-style-type: none"> 11 図書館を利用するなどし、歴史小説、伝記、観察記録文、紀行文、旅行などの諸案内、趣味の工作や料理のつくり方、広告文、俳句など、興味・関心のある文章を読む。 12 小説、詩、新聞、雑誌などで中心となる語や文を捉え、段落相互の関係を考えて読む。 13 叙述を基に場面の移り変わりや情景を想像しながら読む。 14 標識や看板、広告、立札、掲示、テレビやコンピュータ画面の文字などを正しく読み取り、得た情報を生活に生かす。 15 日常生活に応じた漢字、ローマ字、外来語を読む。 16 国語辞典で必要なことなどを調べる。
書くこと	<ol style="list-style-type: none"> 17 日常生活で多く見られる漢字を使って書く。 18 自分の考えや気持ちを明確に書き表したり、句読点やかぎがっこなどを正しく書き表したりする。 19 年賀状や暑中見舞い、旅行先からの絵葉書、近況報告、挨拶文、依頼状、礼状などを相手や目的に応じた書式や言葉遣いで書く。 20 学級新聞、行事の招待状や案内状、諸掲示、予定表などを読み手を意識して分かりやすく書く。 21 住民票や在学証明書の発行申込、定期券の購入申込、その他の生活に必要な文書や諸届など、様式や目的に応じて正しく書くことに慣れる。 22 ローマ字を書くことに慣れ、コンピュータへのローマ字入力のし方が分かる。 23 太筆と小筆を使い分けて書く。

（「国語の内容例」より5段階のみ抜粋）

◆授業時数と指導内容の選択

	内容別の授業時数	指導の形態別の時数配当				
		教科別、領域別の指導等	各教科等を合わせた指導	日常生活の指導	生活単元学習	作業学習
				●	●	●
国語	420	210	210	●	●	●
社会	210	53	157	●	●	●
数学	420	210	210	●	●	●

A 特別支援学校では、国語の内容を指導するのに必要な授業時数を、3年間で420単位時間としています。そのうち、教科別の指導（以下、教科「国語」という。）として、3年間で210単位時間、各学年で週当たり2単位時間を配当しています。また、「各教科等を合わせた指導」として、日常生活の指導と作業学習、生活単元学習を設定しており、「各教科等を合わせた指導」のそれぞれでも、国語の内容を取り扱うこととしています。

週当たり2単位時間で指導する場合の教科「国語」で扱う内容を、「国語の内容例」を参考に、指導事項としてまとめました。本学級では、教科「国語」では3年間を通して下の表の内容を中心に指導することとし、「各教科等を合わせた指導」では、教科別の指導と関連付けた指導や、教科別の指導の時間では十分取り組むことができない活動を中心的に扱うようにしました。

5段階相当の学習グループの教科「国語」の指導事項

聞く	○メモの取り方	○インタビュー	○古典に親しむ	○新聞づくり
話す	○自己紹介 ○電話での会話 ○敬語の使い方 ○発表・報告活動 ○話し合い活動 ○ニュースの紹介			
読む	○説明的な文章の理解 ○物語文の読解 ○詩、俳句、短歌等の鑑賞 ○インターネットや新聞記事を活用した調べ学習 ○国語辞典の活用 ○古文 ○図書館の利用	○漢字 ○ローマ字 ○外来語		
書く	○作文、感想文 ○手紙、礼状、案内状 ○書類の書き方 ○毛筆			

学校で設定した教科「国語」の時数配当と、「国語の指導事項」から、次のページのように単元の配列を計画しました。

◆単元配列の例

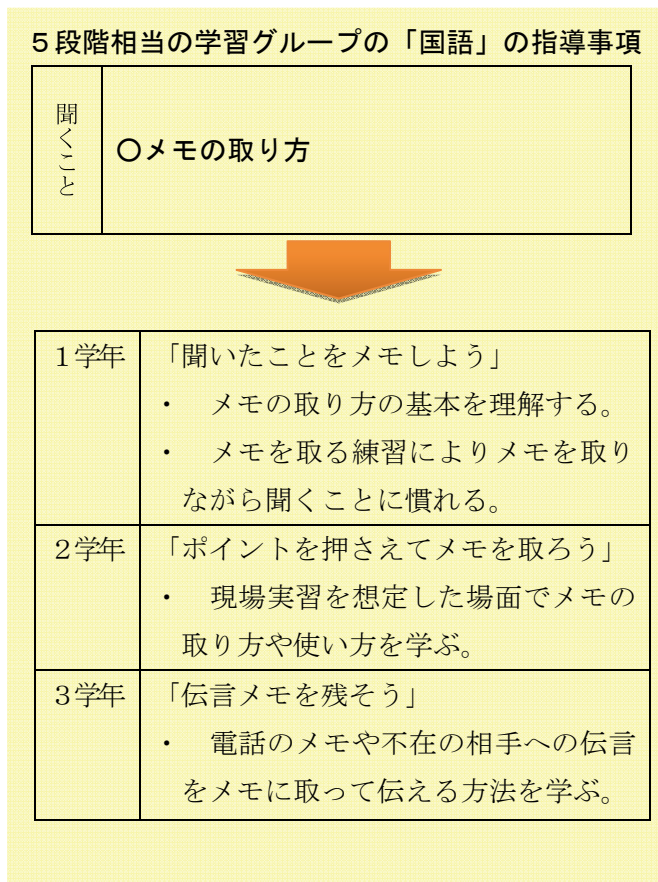
それぞれの時期にどのように指導を行うのかを、3年間を見通して計画を立てました。

指導事項の扱いは、漢字の読み書きのように年間を通じて継続的に学習するものや、作文のように題材やテーマを変えながら繰り返し取り組むもの、3年間で1度は触れておき、「各教科等を合わせた指導」や他の授業、学校生活全般の中で定着を図っていくものなど様々です。

単元の配列は、季節や学校行事とも関連付けながら計画し、行事等への取組みの中で教科別の指導で学んだ内容を深めたり、実際の生活場面で活用する力を高めたりできるような工夫も行いました。

教科別の指導では、児童・生徒の実態に応じ、学習活動に生活的なねらいを持たせ、生活に即した活動を十分に取り入れつつ段階的に指導することが大切です。本学級の生徒は、卒業後の生活を意識し、指導の計画を立てました。

例えば、「聞くこと」に関する指導事項として、「メモの取り方」を設定した本学級では、毎学年、段階的に指導しながら、校外学習や他の授業等での活用を図り、卒業後に「必要なときに自分からメモを取ることができる」ことを目指し、指導計画を作成しました。



1年	
4月	自分について話そう(2) (自己紹介) 国語辞典の引き方(3)
5	聞いたことをメモしよう(6) (メモの取り方)
6	作文(体育祭)(3) 敬語の使い方(丁寧語)(4)
7	物語を読もう(8)
9	壁新聞を作ろう(12) (インタビュー、新聞づくり)
10	
11	読書に親しもう(7) ・図書館の使い方 ・本の紹介
12	漢字に詳しくなろう(4) ・同音異義語、四字熟語 手紙を書こう(年賀状)(3)
1	書き初め(毛筆)(4)
2	古典に親しもう(百人一首)(8)
3	私の5大ニュース(6) (作文、発表)

＜3年間の単元配列計画と年間の行事予定＞

2年	3年	行事等
新聞記事を読もう（5）	伝言メモを残そう（6） ・電話でのやりとり ・伝言メモの書き方、活用	4月 始業式 入学式
詩を読もう（4）		
俳句に親しもう（4）	敬語を使って話そう（4） ・職場で使う表現 ・尊敬語、謙譲語	5 体育祭
五七五で表現しよう（4） （体育祭の感想）		
敬語の使い方（3） （丁寧語、尊敬語を使った自己紹介、面談での話し方）	自分のことを伝えよう（6） （発表、各種申込書等）	6 現場実習（3年）
ポイントを押さえてメモを取ろう（5）	古典に親しもう（6）	7
物語を読もう（10）	漢字に詳しくなろう（3） ・職業に関する漢字、熟語	9 1学期終業式 2学期始業式
漢字に詳しくなろう（3） ・日常生活の漢字、外来語 書類の書き方（2）	調べたことを発表しよう（14） （インターネット・新聞記事の活用、インタビュー、発表）	10 移動教室（1年）
考えを深めよう（7） 「現場実習を経験して」	古典に親しもう（6） （落語、歌舞伎等の鑑賞）	11 現場実習（3年） 進路週間（1年） 現場実習（2年）
年賀状の書き方（3） 古典に親しもう（竹取物語）（11）	自分の言葉で伝えよう（8） （話し合い、発表）	12 文化祭
	詩を読もう（群読）（5）	1 2学期終業式 3学期始業式
	読書に親しもう（6） （図書館の利用）	2 修学旅行（2年）
説明文を読もう（6） （段落相互の関係の読み取り）	創作エッセイ「卒業したら」（6）	3
毛筆「私の好きな漢字」（3）		卒業式 修了式

◆教科「国語」の年間指導計画（単元配列計画）に基づく授業の実践例

単元名：聞いたことをメモしよう（メモの取り方）

1 単元について

特別支援学校高等部学習指導要領の国語の内容には、「聞く」ことの観点として、「1段階（1）話の内容の要点を落とさないように聞き取る」とある。学習指導要領解説では、その項目について「周囲の人からの指示や説明を聞いて理解すること、さらに、必要な場合はメモを取って中心的な内容を正しく理解することなどである」と書かれている。

本単元では、話を聞いて内容を把握し、忘れないようにメモに書き取る課題として「メモの取り方」を取り上げた。メモを取ることは「書く」活動が中心にはなるが、メモを取るためには話の内容を正確に聞き取ることが前提となる。授業の中で〈メモ取り名人11カ条〉と名付けた「メモを書く時のポイント」を押さえることによって、話の中から何を聞き取るべきか（話の要点は何か）が分かり、その積み重ねを通して、将来的にはメモを取らない時でも指示を聞ける力を付けることをねらいにしている。

2 生徒について

本グループの生徒は、学習指導要領の目標・内容や国語の内容例の表によると、概ね5段階相当の生徒である。

本校では、生徒への指導としてメモ帳を常時携帯し、連絡事項や説明の際にメモを取るようには促してはいるが、本グループの生徒はまだ自分でメモを取り活用するところまでは至っていない。しかし、生徒はメモ帳やメモを取ることに興味を持っているようで、好きなゲームやテレビ番組について書くなど、自分なりの使い方をしている生徒も見られる。今後の学校生活の中で、行事を中心にメモの必要な場面が多く出てくると考え、この時期に改めてメモの取り方について学習し、実際にメモを取る練習を行うこととした。

3 教材について

メモを取るためには聞いたとおりに書くのではなく、話の中から中心的な内容を書き出す力が求められる。しかし、「耳で聞いただけの情報から中心的な内容を自分の判断で要約する」というのは本グループの生徒には難しい課題である。また、生徒には「きれいに書きたい」「分かる単語は漢字で書きたい」という思いがあり、ノートやワークシートに記入する際も何度も書き直したり必要以上に時間をかけて書いたりしがちであり、簡単に必要なことのみを書く「メモを取る」ということには困難が生じると思われる。

そこで、学習のはじめに「メモ取り名人11カ条」としてメモを取る際のルールを提示し、11のポイントを順に練習していく中で、メモの書き方や聞き取るべき内容を体感的に理解していくという形式を取ることにした。この「11カ条」は、それぞれの生徒の国語ファイルとメモ帳にそれぞれ挟み込んで、必要なときにいつでも確認できるようにした。

4 目標

- ・ メモをとる際のルールを知り、実践できる。
- ・ 聞き取らなければならない中心的な内容を、聞き取ることができる。
- ・ 必要なことを簡潔に書くことができる。

5 指導計画

①年間指導計画における位置付け

本グループでは、1年間を通して「話す」「聞く」「読む」「書く」「考える」の各分野の内容に触れることができるように配慮して単元を設定している。

2学期には「新聞づくり」の単元でインタビューを行い、メモを基に壁新聞を作成する予定である。聞きとったことを生徒自身がメモすることができるよう、この時期にメモの取り方の基本を学習することとしている。また、2学期に実施する校内実習においても、メモを取る習慣を意識付けられるようにする。

②指導計画

		学習内容	
第1次	第1時	メモを取ってみよう（導入）	メモを取る時のルールを知る
第2次	第2時	<メモ取り名人 11カ条>	メモ帳の使い方
	第3時	メモ取り名人①②③④⑤	メモの訂正、番号や矢印を使って書く
	第4時	メモ取り名人⑥⑦⑧⑨	5W1Hを意識して書く
	第5時	メモ取り名人⑩⑪	メモの中で大切なところを見つける
第3次	第6時 (本時)	まとめ	自分のメモ帳に書いてみる

6 指導の工夫・配慮事項

- ・ 国語の授業時は縦書きで書くことが多いが、より実践的なメモの取り方を学習するため、本単元では横書きで書くことにし、ワークシートを用意した。
- ・ 何度もメモを取る経験をする中で書き方を理解していけるよう、説明や指示を聞いてメモを取る例題を多く用意した。また毎回「メモ取り名人 11カ条」に照らして、ルールを守って書けたかを各自で評価するようにした。
- ・ よくできた部分をできるだけ具体的に褒め、生徒が自信をもって学習できるようにした。
- ・ 友達のメモの書き方のよいところを見て真似できるように、各自で書く時間の後、友達のメモを読む時間を設定した。

7 展開例（6／6時間目）

（1）本時の目標

- ・ 聞き取らなければならない中心的な内容（5W1H）を、聞き取れる。
- ・ メモを取るのに効果的な方法<メモ取り名人 11カ条>を守ってメモが取れる。
- ・ 聞き取れなかった時、聞き返すことができる。

(2) 本時の展開

時間	学習活動・学習内容	指導上の留意点 配慮事項	生徒 A	生徒 B	具体的な 評価規準	
導入 (3分)	○前回の授業を思い出し、 本時の学習内容を知る。 『今日の学習』 『メモの取り方』	・黒板に今日の学習 内容、学習の流れを 板書しながら、めあ てを確認する。	・何の学習を するのかを 具体的に知 る。	・学習内容を確 認し、本時へ の期待感を高 める。	・教師に注目し、 今日の学習につ いて知ろうとし ている。	
展開 (42分)	○「メモ取り名人 11 カ条」 を確認する。 ・一つずつ声に出して読んで、 ルールを思い出す。 ・それぞれの本時のめあてを 確認する。	・一つずつ指差しな がら確認する。 ・特に忘れやすいと ころは、繰り返して 伝え気を付ける よう促していく。	本時のめあて		・番号や矢印 を使い、分 かりやすく 書く	・メモ取り名人11 カ条を覚えている。
	○メモ取り (a) 1 教師の課題文を聞く。 2 各自、メモ用紙に書き 取る。 3 (聞き取れなかった場合 は、聞き返す) 4 教師の確認に従い、書 くべきことが書けたか、 自分のメモをチェック する。新たに分かったも のは書き足す。 5 メモ取り名人 11 カ条に 照らして、自分がルール に則って書けていたか確 認する。 6 友達とメモ用紙を交換 して (左の席の友達へ)、 友達の書き方から良いと ころを見つける。 7 自分のメモ用紙が戻っ てきたら、より良いメモ に書き直す。分からない 漢字や言葉が分かった ら、書き足す。	・これから課題文を 読むことを伝え集 中を促す。 ・重要な部分 (5 W 1 H) は、聞き取 りやすいようには っきり話す。 ・書くときのルール がうまく使えてい ない時は、11 カ条 の紙を指し示しな がら説明する。 ・こうしたらよい、 ここはよいという 点を黒板に書き出 し、全員で共有で きるようにする。 ・明らかに間違っ ている部分は友達と メモを見合う前に 個別に指導する。	・集中して話 を聞く。 ・分からなく なった時は、 手を挙げて聞 き返す。 ・内容に応じ て行を変えて 書く。 ・単語や短い 文で書くこと を意識する。 ・時間に合わ せて書く量を 減らす。	・メモを取る 意識をもって 話を聞く。 ・メモを書き 始める時に、 今日の日付を 忘れずに書 く。 ・話の流れが 分かるよう、 番号や矢印を 活用する。 ・メモを書い たら読み直し て、大切なと ころに印を付 ける。	・メモを取る姿勢 になっている。 ・集中して話を聞 く。 ・分からなくな った時、聞き返 すことができる。 ・11 カ条の約束 を守ってメモが 取れる。 ・初日と今日のメ モ用紙を見比べ て、11 カ条を守 って書くともモ が見やすくなる ことが分かる。	
まとめ (5分)	○プリントを提出する。 ○単元を振り返る。	・今後のメモ帳の活 用を、具体的な場 面を例示しながら 促す。	・メモ帳を使 うことへの意 識を高める。	・メモ帳を使 う場面を具体 的にイメージ する。	・メモ帳の活用へ の期待や意欲を表 現する。	

個別の目標と手だて

	生徒の実態	単元の目標	本時の目標	指導の手だて	評価規準・ 評価方法
A	細かい聞き取りに課題 があるが、だいたいのポ イントをつかみ聞くこと ができています。	・「いつ」を押さえながら 話を聞きとる。 ・単語や短い文で簡潔にメ モをとる。	・単語や短い文でメモ をとる。 ・分からないときに聞 き返す。	・指示や説明を理解で きたか確認しながら 進める。	略
B	興味のあることをメモ 帳に書くなど、メモの活 用に興味をもっている。 意欲的に学習に取り組 んでいる。	・メモのとり方を理解し、 ポイントを押さえて聞 き取る。 ・自分から進んでメモをと ろうとする。	・記号や矢印を使って 分かりやすくメモを とる。 ・メモを読み返し内容 を確認する。	・分かりやすいメモの 例を示し、読み返す際 に下線や印を付け るとよいことを伝える。	